

KT 計画 について

玉 木 章 夫・渡 理 龍 彦

1. KT 計画

昭和 37 年 5 月 24 日夜、秋田実験場において発射された K-8-10 号機は発射直後に事故をおこし、推進および機体の破片の数個が実験場後方の勝手部落に落ちて、一部の家屋に損傷を与えた。この事故にかんがみて、われわれ実験班は発射実験の安全性について再検討を行ない、十分な保安対策を講じた上で実験を継続したいと考え、数回の討議の結果、秋田実験場は安全区域が狭く、これに対して十分な保安対策を施すことはきわめて困難であり、したがって発射実験は安全区域の広い鹿児島宇宙空間観測所に移す方がよいとの結論に到達した。鹿児島観測所は、はじめの予定では昭和 38 年 3 月に施設の完成をまって使用することになっていたが、当時すでに二つの台地の整地をほぼ終了した状態にあったので、これに仮設工事を施すことによって、予定を早めて実験に使用することを考えたわけである。この鹿児島臨時使用の計画が KT 計画 (Kagoshima Transfer あるいは Temporary の意) で、これには仮設工事で秋田にある実験設備の移動をふくんでいる。

KT 計画は 5 月 27 日秋田において提案され、計画全般を玉木、事務は渡理が担当し、別に保安対策は野村教授が担当して、鹿児島における臨時的な実験の安全性に万全を期することとなった。そして帰京後関係各方面の了解を求めるとともに、現地を調査して 6 月 25 日までに具体案を作ることとなった。

2. 現地調査

鹿児島における土木工事の進捗状況および仮設工事の可能性を調査し、かつ、その早期使用について鹿児島県および内之浦町の了解を求めめるために、6 月 6 日より糸川・丸安・野村教授と玉木・渡理の 5 名が現地におもむいた。

現地の土木工事は、雨季が長びいたためおくれがちであり、二つの台地とこれを結ぶ道路は泥沼のような状態にあって、天候回復をまって仮設工事をはじめるとして、8 月に完成できるか、あるいは安全を見て 9 月完成とするかについて慎重な討論が行なわれたが、けっきょく 8 月中旬までに完成させて実験を行なうことを決意した。幸いに鹿児島県および内之浦町当局からは温かい、そして積極的な支持と協力がえられたので、ただちに具体的な建築案を作ることとなった。

3. 8 月実験の決定

5 月 27 日、文部省においてロケット観測に関する各

省連絡協議会が開かれ、鹿児島宇宙空間観測所の仮設工事によって 8 月 20 日から 30 日の間に、K-8L-1、AT-150-1、OT-75-2 の 3 機の飛しょう実験を行なうことが了承された。

4. 仮設工事

7 月 9 日、内之浦町役場の議会議室を借りて、実験に必要な仮設施設の工事の入札が行なわれ、仮設観測小屋の施工は株式会社小牧組、仮設電力工事施工は九州電気工事株式会社に落札、7 月 10 日より着工、8 月 19 日までに施工を完了することとなった。工事の内容はつぎのとおりである。

名 称	構 造	坪 数	位 置
テレメータ観測小屋	木 造	10 坪	第 2 団地計測センター
計測小屋	"	"	"
本部小屋	"	"	"
本部控室	"	"	"
レーダ観測小屋	"	4	"
第 2 光学系観測小屋	"	1.5	"
第 1 光学系	"	2	第 1 団地後方
ロケット組立小屋	"	10	第 1 団地ランチャエリヤ
便所 (第 1)	"	0.5	第 2 団地計測センター
" (第 2)	"	"	第 1 団地ランチャエリヤ
警備連絡掩体	鉄筋コンクリート	2 個	長坪部落
コンクリート防護壁	"	4 個	第 2 団地計測センター
ランチャベース	コンクリート	225 m ²	第 1 団地ランチャエリヤ
テレメータアンテナ用基礎	"	1 個	第 2 団地計測センター
GMDIレーダ用基礎	"	1 個	"

これらの工事は関係者の献身的な努力によって急速に進捗し、8 月上旬には全部の小屋が完成し、秋田よりの器材の搬入をまって実験に使用できる状態となった。

5. 秋田実験場器材の運搬

鹿児島における実験開始の見込みが立ったところで、秋田実験場よりの器材の撤収、運搬が行なわれた。7 月 17 日より撤収作業が開始され、24 日には発送が行なわれた。そして 8 月 14 日までに貨車 7 輛をもって全部の輸送が完了した。

6. む す び

K-8-10 の事故によって、秋田実験場の使用が不可能となり、昭和 37 年度の飛しょう実験は一頓座を来たすおそれがあった。この時期に、すでに鹿児島に新しい実験場が設置されており、しかも仮設工事によって急速に使用できるような状態まで土木工事が進んでいたことは実験班にとってまったく幸いなことであった。

おわりに、この時間的に非常な困難を伴った KT 計画が無事に実現されたことは、関係当局の方々の温かいご理解と、工事担当者の積極的なご協力によるものと、深く感謝の意を表する次第である。

(1963 年 5 月 1 日受理)